

## 学生が実習の前と後に抱く「子ども」と 「保母」のイメージの変化※

迫 田 圭 子\*\*

### 1 はじめに

人間福祉学科の1年生の80%以上の学生は、「保育実習1の研究1」を履修し、その数ヶ月後に保育所実習を10日間体験する。その時期になると、毎年学生たちは、大変な緊張感を抱く。不安で前夜は眠れなかった、食事が喉を通らなかったなどと訴える学生もおり、個人差があるとしても、それぞれに緊張の度合いが極限にまでできていることがうかがえる。そのような状態がなぜ起きるのだろうか。いくつかの原因が考えられる。

- ① キャンパス内で自己責任のもとで行動していた、言い換えれば、自由な雰囲気を満喫し始めていた大学生活から一変して、一人ないし数人で地域社会の中の保育園に、立正大学の学生であるという看板を背負いながら、実習体験を、しかも10日間も連続して行う事への不安が考えられる。それらは、一人で社会に出て行動をするという体験の不足からだろう。
- ② 保育園とはどのような所なのかを、講義の中で学習し始めているとはいえ、保育園と直接的にかかわりをもったことのある学生がほとんどいない。小学校卒業以来、中学生、高校生、中には浪人生、そして大学生になってからの6年以上の歳月に、いかなる理由であれ、短時間であれ保育園の敷地や建物の中に入った経験をもつ学生は、全体の4分の1以下であり、学生の居住地のどこに保育園があるかを知らない学生が2分の1だというのが実状である。ましてや保育園内にいるであろう保母と言葉をかわす体験を持つ学生が少ないのは、いうに及ばない。こうした保育園に接したことがないという経験不足が理由で、実際に不安を抱く学生がほとんどである。
- ③ 少子化、核家族化、都市化がすすむ中で学生たちは成長してきた。兄弟姉妹は少なく、甥、姪、いとこをはじめ、近所の年下の子どもとの交流も日常化されていない。半数の学

※Change of Image of "Child" and "Nursery school teacher", which students imagine before and after the practical training

※※Keiko Sakoda 立正大学社会福祉学部人間福祉学科  
キーワード：実習体験、子どものイメージ、保母のイメージ

生が、自分のことを知っている子どもはいると答えているが、その大半が親戚、いとこと答えており、血縁関係者である。今までに出会ったことのない子どもの前に立った時、「子どもとはいったいどういうものなのだろう」、「子どもと接した時、自分自身がどのように対応したらいいのだろう」といった、子どもと接する体験のなさが、実習の不安を一層かき立てるのだろう。

こうした緊張をしながらも、学生たちは、実習という実体験に出かけ、保育現場で数え切れないほどの気づき、感動、疑問、驚き、納得など、心に広く深く刻むこととなる。それらの実習体験の内容の一つ一つは、彼らをますます緊張させることになった場合もあっただろうし、体の中から緊張がずっと抜け、リラックスした場合もあっただろうと思われる。また、時には緊張そのものに心地よい充実感を味わった場合もあっただろうし、緊張の糸が混迷し、苦しみを味わった場合もあったかもしれない。保育実習という初体験を通して、学生の内面的変化はどのようなものであったのだろうか。体験不足の学生たちが、実習を経験し、心の中に何が生まれ、何が消えていったのかをかいま見ることが出来れば、今後の実習のあり方にも通じるものと考え、検討するものである。

## 2 実習前と後に描く「子ども」と「保母」のイメージ調査

調査の方法：

### ① 入学時イメージ調査

平成8年度と平成9年度の立正大学社会福祉学部人間福祉学科入学学生のうち、「保育実習1の研究1」履修の学生を対象に、4月の第1回目の授業の冒頭で調査したものの合計

### ② 実習終了時のイメージ調査：

平成8年度「保育所実習1」の履修者を対象に、見学観察実習と観察参加実習を含んだ10日間の実習終了時（平成8年9月）に調査したもの

イメージ調査の設問：

① 「子ども」（赤ちゃんを含む）という言葉からあなたは何をイメージしますか、書いてください。複数回答可能。

② 「保母」という言葉からあなたは何をイメージしますか、書いてください。

調査対象人数：

入学時（平成8年、9年度）の学生数193人

実習終了時（平成8年度）の学生数98人

## 3 学生の、「子ども」のイメージ調査結果

「子ども」のイメージ調査の結果、63の項目が挙がってきた。それらをA、B、C、Dの4

つの群に分け、それぞれにキーワードを付けた。

A群 : 親しみの感情 (23項目)

B群 : 戸惑いの感情 (14項目)

C群 : 身体的特徴 (12項目)

D群 : 生活環境 (14項目)

これらの4つの群別に考察していきたい。

表1 「子ども」のイメージ調査

キーワード	項 目	H 8 年, 9 年入学時			H 8 年, 実習終了時			項 目 増減(C) (C=B-A)	キーワード 別 増 減 (Cの合計)
		割合 (A)	キーワード 別 順 位	総合 順位	割合 (B)	キーワード 別 順 位	総合 順位		
A 群  親 し み の 感 情	1 かわいい	67%	1	1	59%	1	1	△ 8 %	+81
	2 元気	14%	2	5	53%	2	2	39%	
	3 無邪気	12%	3	6	15%	4	4	3 %	
	4 笑顔, 笑う	9 %	4	8	5 %	10		△ 4 %	
	5 面白い, 楽しい	7 %	5	9	13%	5	5	6 %	
	6 純粹	5 %	6		5 %	10		± 0	
	7 素直	5 %	6		22%	3	3	17%	
	8 はしゃぐ	4 %	8		8 %	7	9	4 %	
	9 いたずら	4 %	8		0 %			△ 4 %	
	10 遊ぶ	4 %	8		7 %	8		3 %	
	11 子どもが欲しい	3 %	11		1 %	15		△ 2 %	
	12 幼い	2 %	12		0 %			△ 2 %	
	13 好き	2 %	12		0 %			△ 2 %	
	14 甘えん坊	1 %	14		7 %	8		6 %	
	15 好奇心	0 %			11%	6	6	11%	
	16 やさしい	0 %			5 %	10		5 %	
	17 繊細, 敏感	0 %			2 %	13		2 %	
	18 ストレート, シビア	0 %			2 %	13		2 %	
	19 シンプル	0 %			1 %	15		1 %	
	20 臨機応変	0 %			1 %	15		1 %	
	21 飽きない	0 %			1 %	15		1 %	
	22 けなげ	0 %			1 %	15		1 %	
	23 不思議	0 %			1 %	15		1 %	
キ ー ワ ー ド 別 合 計		139%			220%			+81%	

\* 子どものイメージとしてかわいいが入学時および実習後ともども、第1位であり、6割前後の学生がつねに子どもはかわいいと思っている。

\* 実習後、子どもは元気であると半数の学生がイメージした。入学時の14%から実習後の

53％への増加は、実に264％となる。

＊ 入学時、はしゃぐの4％から実習後の8％への増加は、実習を通してとにかく子どもたちの元気さとはしゃぐ姿に大いに驚いたことがうかがえる。

＊ 親しみの感情の中で、実習終了時のかわいい、元気を除いた項目で、大幅な増加が見られるものは、素直5％から22％へ、好奇心0％から11％へ、甘えん坊1％から7％へであり、そのほかにも、面白い・楽しい7％から13％、無邪気12％から15％、やさしい0％から5％へなどが挙げられる。

一方減少しているものは、かわいいの8％減のほかには、4％程度の減少幅である。

＊ 親しみの感情の項目が、実習終了時新たに増えている。たとえば、好奇心、やさしい、繊細・敏感、ストレート・シビア、シンプル、臨機応変、飽きない、けなげ、不思議、などで、これは実習体験前の入学時に比べて、子どもに対する親しみの感情が多様になっていることを示している。

＊ キーワード親しみの感情は、23項目イメージされ、入学時の14項目に比べて実習終了時の20項目と、6項目増である。実習を通して、子どもに対する親しみの感情が湧きいでているのが読みとれる。

表2 「子ども」のイメージ調査

キーワード	項 目		H 8 年， 9 年入学時			H 8 年，実習終了時			項 目 増減(C) (C=B-A)	キーワード 別 増 減 (Cの合計)
			割合 (A)	キーワー ド 順 位	総合 順位	割合 (B)	キーワー ド 順 位	総合 順位		
B 群  戸 惑 い の 感 情	24	泣く	19%	1	3	9%	1	8	△10%	△16
	25	うるさい	15%	2	4	5%	2		△10%	
	26	生意気	4%	3		2%	7		△2%	
	27	無力	4%	4		1%	9		△3%	
	28	やんちゃ	3%	5		3%	4		±0	
	29	無知	3%	6		0%			△3%	
	30	わがまま	2%	7		3%	4		1%	
	31	未知	2%	8		3%	4		1%	
	32	大人びてる	0%			4%	3		4%	
	33	弱い，傷つく	0%			2%	7		2%	
	34	複雑	0%			1%	9		1%	
	35	難しい	0%			1%	9		1%	
	36	微妙	0%			1%	9		1%	
	37	爆弾	0%			1%	9		1%	
キ ー ワ ー ド 別 合 計			52%			36%			△16%	

入学時、戸惑いの感情として、泣くが19％、うるさいが15％とイメージし、子どものイメージの総合順位3位と4位を示している。うるさいは、親しみの感情の裏返し表現と見

る見方もあるだろうが、戸惑いの感情が含まれていることは確かであると考え、B群戸惑いの感情の中に入れた。子どもが泣く、うるさいは、そのような時、自分自身がどのように対処すればいいのかわからなく、困惑してしまう学生自身の姿が写し出されているのではないだろうか。

- \* 入学時19%だった泣くは、実習終了時9%に減少し、うるさいも5%に減少している。泣くは、総合順位3位から8位へ後退し、入学時4位だったうるさいは、10位以下に後退している。実習で子どもに直接接した学生は、自分自身の戸惑いよりもむしろ親しみの感情へ転化していったのであろう。
- \* 戸惑いの感情項目で、入学時は0で、実習後新たに加わってきたイメージ項目がある。大人びている、弱い・傷つく、複雑、難しい、微妙、爆弾などで、戸惑いの感情も多様化しているのが見られる。実習体験を通して、それぞれの学生が、大なり小なり様々な戸惑いを感じたことがうかがえる。

表3 「子ども」のイメージ調査

キーワード	項 目		H 8 年，9 年入学時			H 8 年，実習終了時			項 目 増減(C) (C=B-A)	キーワード 別 増 減 (Cの合計)
			割合 (A)	キーワード 別 順 位	総合 順位	割合 (B)	キーワード 別 順 位	総合 順位		
C 群  身 体 的 特 徴	38	ちいさい	50%	1	2	10%	1	7	△40%	△56
	39	丸々、やわらか	10%	2	7	0%			△10%	
	40	大人でない	3%	3		0%			△3%	
	41	眠る	2%	4		1%	2		△1%	
	42	おもらし	2%	4		0%			△2%	
	43	鼻水	2%	4		0%			△2%	
	44	ハイハイ	2%	4		0%			△2%	
	45	よだれ	1%	8		0%			△1%	
	46	うんち	1%	8		0%			△1%	
	47	短足	1%	8		0%			△1%	
キ ー ワ ー ド 別 合 計	48	走る	0%			6%			6%	△56%
	49	大声	0%			1%	2		1%	

- \* 子どものイメージとして、ちいさいが入学時50%の学生がイメージしていたが、実習終了時、10%と大幅に減少している。一つの項目がこのような急激な減少をしたのは、ちいさいが唯一である。
- \* C群の身体的特徴をイメージした項目は、入学時10項目挙げられていたが、実習後はわずか5項目に減少し、C群全体も、入学時の合計74%から実習終了時の18%、つまり差し引き56%のイメージの減少である。子どもをイメージするのに、入学時は、子どもの心情的な内面よりも、目に見える身体的特徴に偏っていたことがうかがえる。

表 4 「子ども」のイメージ調査

キーワード	項 目		H 8 年， 9 年入学時			H 8 年， 実習終了時			項 目 増減(C) (C=B-A)	キーワード 別 増 減 (Cの合計)
			割合 (A)	キーワード 別 順 位	総合 順位	割合 (B)	キーワード 別 順 位	総合 順位		
D 群  生  活  環  境	50	おもちゃ	5 %	1		0 %			△ 5 %	△21
	51	ミルク	5 %	1		0 %			△ 5 %	
	52	三輪車	3 %	3		0 %			△ 3 %	
	53	絵本	3 %	3		0 %			△ 3 %	
	54	ブランコ	2 %	5		0 %			△ 2 %	
	55	おむつ	2 %	5		0 %			△ 2 %	
	56	ベビー服	2 %	5		0 %			△ 2 %	
	57	おしゃぶり	1 %	8		0 %			△ 1 %	
	58	ガラガラ	1 %	8		0 %			△ 1 %	
	59	砂場	1 %	8		0 %			△ 1 %	
	60	鬼ごっこ	0 %			1 %	1		1 %	
	61	おやつ	0 %			1 %	1		1 %	
	62	ともだち	0 %			1 %	1		1 %	
	63	家庭環境	0 %			1 %	1		1 %	
キ ー ワ ー ド 別 合 計			25%			4 %			△21%	

D群：生活環境の項目は，入学時10項目あったが，実習終了時は4項目，しかも，合計もわずか4％に減少している。

子どもをイメージするのに，入学時は，子ども自身というよりも子どもの周辺にある目に見える生活環境の用品に偏っていたことがうかがえる。

「子ども」のイメージを総合考察すると，入学時は子どもはかわいい（1位），ちいさい（2位）しかし泣く（3位），うるさい（4位）と躊躇している学生の姿がうかがえる。実習終了時は，子どもはかわいい（1位），元気（2位），素直（3位），無邪気（4位），面白い・楽しい（5位），好奇心（6位）など，親しみの感情が上位6位までを占めている。

A，B，C，D群のキーワード別に，入学時と終了時を対比すると，A群の親しみの感情が81％の増となり，B群の戸惑いの感情が16％の減，C群の身体的特徴が56％の減，D群の生活環境が21％の減となる。これを見ると，子どもへのイメージがA群の親しみの感情へと転化していることがうかがえる。

4 学生の、「保母」のイメージ調査結果

「保母」のイメージ調査の結果，43項目が挙がってきた。それらを，E，F，G，3つの群に分け，それぞれにキーワードを付けた。

E群：人柄（12項目）

F群：職業（22項目）

G群：技術・姿（9項目）

これらの3つの群別に考察していきたい。

表5 「保母」のイメージ調査

キーワード	項 目		H 8 年, 9 年入学時			H 8 年, 実習終了時			項 目 増減(C) (C=B-A)	キーワード 別 増 減 (Cの合計)
			割合 (A)	キーワード 別 順 位	総合 順位	割合 (B)	キーワード 別 順 位	総合 順位		
E 群  人  柄	1	やさしい	68%	1	1	55%	1	1	△13%	+18
	2	子ども好き	13%	2	3	7%	6		△6%	
	3	笑顔	11%	3	5	24%	2	2	13%	
	4	明るい	10%	4	6	23%	3	3	13%	
	5	かわいい	8%	5		7%	6		△1%	
	6	お母さんのよう	7%	6		17%	4	6	10%	
	7	いい人	6%	7		2%	11		△4%	
	8	温か	5%	8		2%	11		△3%	
	9	頼もしい	5%	9		3%	8		△2%	
	10	面倒見がいい	5%	10		3%	8		△2%	
	11	若々しい	3%	11		3%	8		±0%	
	12	しっかり者	0%			12%	5	7	12%	
キ ー ワ ー ド 別 合 計			141%			157%			+18%	

\* 入学時、「保母」は一言で言えば、やさしさがなくては出来ないと思っている。全体の68%をしめて総合順位1位である。実習終了時は、13%減ではあるが、やはり総合順位第1位である。「保母」はやさしさがやはり必要だったと確信したのだろう。

\* やさしさをより具体的にイメージする項目は、実習終了時、大幅に増加している。明るくが10%から23%に、笑顔が11%から24%に、お母さんのようなが7%から17%にと倍増し、入学時0であったしっかり者が12%と浮上し、総合順位7位にまで上がってきている。

\* 入学時漠然としていたやさしさが、実習終了時具体化され、「保母」の人間性、つまり内面的資質のイメージが増加している。

\* 「保母」という職業は、入学時、楽しい・面白い仕事だが、たいへんだとイメージしていた。重労働・疲れるや忙しいを加えると、「保母」という将来像を意識しながら、職業の厳しさがイメージされていた。実習終了時、たいへんが半減し、その大変さがより具体化され、体力・健康が「保母」という職業に欠かすことができない条件であると実感しているのではないか。

\* 入学時、「保母」イコール女性、保育園、教育者と、職業をイメージしたのは、職種としての形式、形態イメージが強かったといえる。実習終了時は、それらのイメージがほとんどの

学生が実習の前と後に抱く「子ども」と「保母」のイメージの変化(迫田)

表6 「保母」のイメージ調査

キーワード	項 目		H 8 年， 9 年入学時			H 8 年， 実習終了時			項 目 増減(C) (C=B-A)	キーワード 別 増 減 (C の合計)
			割合 (A)	キーワード 別 順 位	総合 順位	割合 (B)	キーワード 別 順 位	総合 順位		
F 群	13	たいへん	39%	1	2	22%	1	4	△17%	+ 7
	14	女性	12%	2	4	2 %	11		△10%	
職	15	重労働， 疲れる	10%	3	6	11%	4	9	1 %	
	16	忙しい	9 %	4	9	12%	3	7	3 %	
	17	楽しい， 面白い	9 %	5	9	0 %			△ 9 %	
	18	保育園	7 %	6		0 %			△ 7 %	
	19	体力， 健康	5 %	7		20%	2	5	15%	
	20	教育者	4 %	8		1%	16		△ 3 %	
	21	やりがい	4 %	9		9 %	5	10	5 %	
	22	厳しい	3 %	10		8 %	6		5 %	
	23	将来	3 %	10		2 %	11		△ 1 %	
	24	大声	2 %	12		5 %	7		3 %	
業	25	忍耐強い	2 %	13		4 %	9		2 %	
	26	信頼	0 %			5 %	7		5 %	
	27	責任感	0 %			4 %	9		4 %	
	28	聡明	0 %			2 %	11		2 %	
	29	真面目	0 %			2 %	11		2 %	
	30	保護	0 %			2 %	11		2 %	
	31	精神力	0 %			1 %	16		1 %	
	32	家庭的	0 %			1 %	16		1 %	
	33	愛情	0 %			1 %	16		1 %	
	34	観察力	0 %			1 %	16		1 %	
キ ー ワ ー ド 別 合 計			109%			115%			+ 7 %	

くなり、信頼、責任感、聡明、真面目、保護、精神力など、職業人としての内面的資質イメージが浮かび上がってきている。

- ※ 漠然と楽しい・面白いと考えていた職業が、たいへん、重労働、疲れる、忙しい、健康・体力などの困難さのイメージに転化したのか、それともやりがいの項目総合順位10位の増加につながったのか、やりがいという自分の将来像につながりやすいイメージが増加したことは注目したい。
- ※ 入学時、「保母」のイメージとして、保母の姿、つまりエプロン、ジャージなどをイメージした学生が12%いた。保育活動の内容として、ピアノ、歌、遊戯、遊び、散歩など、目に見え、姿が浮かぶイメージが多かった。
- ※ 実習終了時は、保母の姿や活動の項目はほとんどなく、エプロンが0に減ったことを注目したい。



表7 「保母」のイメージ調査

キーワード	項 目		H 8 年, 9 年入学時			H 8 年, 実習終了時			項 目	キーワード 別 増 減 (Cの合計)
			割合 (A)	キーワード 別 順 位	総合 順位	割合 (B)	キーワード 別 順 位	総合 順位	増減(C) (C=B-A)	
G 群  技 術 ・ 姿	35	エプロン	10%	1	8	0%			△10%	△25
	36	ピアノ	6%	2		0%			△6%	
	37	歌	4%	3		2%	1		△2%	
	38	遊戯	3%	4		1%	2		△2%	
	39	ジャージ	2%	5		2%	1		±0	
	40	遊び	2%	6		0%			△2%	
	41	散歩	1%	7		0%			△1%	
	42	おんぶ	1%	8		0%			△1%	
	43	ポニーテール	1%	9		0%			△1%	
キ ー ワ ー ド 別 合 計			30%			5%			△25%	

＊ 実習終了時は、技術・姿の項目が、9項目から3項目に減少している。

＊ 実習終了時は、「保母」のイメージが技術・姿よりも人格や職業に大幅に転化している。

「保母」のイメージを総合考察すると、入学時は、保母の人柄の大切さとともに、職業人としての大変さがイメージされていた。実習終了時は、ますますE群：人柄の項目の増加、F群：職業の項目の増加となり、G群の技術・姿の項目だけが減少している。項目数はE群：人柄が11項目から12項目へ、F群：職業が13項目から20項目へと増加し、G群：技術・姿の項目数は9項目から3項目に減少している。これらを通して、「保母」のイメージが、実習終了時、職業人への具体的イメージの多様化へと急激に広がっていることがうかがえる。

## 5 保育園現任職員が描く「子ども」と「保母」のイメージ調査

調査対象人数：

埼玉県入間市内の民間保育園3園の職員28名と長野県小諸市公立保育園8園、民間保育園2園の75名、合計103名を対象に行う。

調査方法：

白紙に記入方式

イメージ調査の設問：

- ① 「子ども」(赤ちゃんを含む)という言葉からあなたは何をイメージしますか、書いてください。複数回答可能。
- ② 「保母」という言葉からあなたは何をイメージしますか、書いてください。  
(学生たちの設問と同じである。)

## 6 保育園現任職員の「子ども」のイメージ調査結果

「子ども」のイメージ調査の結果、67項目が挙がってきた。上位20項目は、下記の通りである。その項目が、学生のイメージ調査で分類したA、B、C、D群のどれに所属していたかも付け加えた。学生のイメージ調査では無かった項目を、新とした。

1	かわいい	61%	A
2	元気	23%	A
3	遊ぶ	19%	A
4	笑顔・笑う	14%	A
5	純粹	14%	A
6	無邪気	10%	A
7	素直	10%	A
8	未来	10%	新
9	泣く	8%	B
10	丸々・やわらか	8%	C
11	母親	7%	新
12	ちいさい	6%	C
13	自由	6%	新
14	ひとみ	5%	新
15	眠る	5%	C
16	可能性	4%	新
17	宝物	4%	新
18	発想	4%	新
19	成長	4%	新
20	表情	4%	新

＊ かわいい61%が他の項目と大差のある1位である。これは学生のイメージとほぼ同率で1位であることも一致している。

＊ 1位から7位までがA群親しみの感情である。

＊ 67項目中、44項目が新しい項目であった。上位20位中、半数が新項目であることがうかがえる。

## 7 保育園現任職員の「保母」のイメージ調査結果

「保母」のイメージ調査の結果、68項目が挙がってきた。上位20項目は下記の通りである。

その項目が、学生のイメージ調査で分類したE, F, G群のどれに所属していたかも付け加えた。また、学生のイメージ調査では無かった項目を新とした。

1	やさしい	43%	E
2	母親のよう	33%	E
3	体力・健康	23%	F
4	明るい	16%	E
5	遊ぶ	16%	新
6	笑顔	13%	E
7	やりがい	6%	F
8	子ども好き	5%	新
9	教える	4%	新
10	たいへん	4%	F
11	重労働	4%	F
12	温か	4%	E
13	先生	4%	新
14	面倒見がいい	3%	E
15	楽しい・面白い	3%	F
16	大声	3%	F
17	だっこ	3%	新
18	仕事	2%	新
19	世話	2%	新
20	育てる	2%	新

\* やさしい43%が、他の項目と差のある1位である。これは、学生のイメージと一致している。

\* 母親のよう33%が2位である。これは、学生のイメージに比べると、大幅に増加していることが興味深い。

\* 遊ぶ16%が、新しい項目として上位に挙がっている。「保母」が子どもに遊びを提供する職種であると、現任職員はとらえているのであろう。

\* 大変という項目が4%と非常に低い。学生のイメージが上位であったことに比べると、大差がある。

## 8 おわりに

学生に実習前と後にイメージ調査を行うことで、「子ども」、「保母」のいる保育園の実体験が、彼らの信条に具体的な広がりを持たせていることが明らかになった。抽象的であったイ

イメージが、具体的なイメージになりつつあることは、学生自身が自分の将来像をイメージし始めたことにつながるのではないだろうか。実体験という自己を投入する体験は、自分自身を知ることになり、その中で、保育園を理解しようとしている姿がうかがえる。保育園現任職員のイメージ調査と学生のイメージ調査とを対比してみると、「こども」、「保母」共通イメージが上位を占めている。これは、実習中に現任職員と心が通い合う、共感しあう体験ととらえているからだろうか。その一方でたいへんという項目に大差がある。学生がたいへんととらえることに、現任職員は驚くであろうし、職業意識の薄さととらえているのではないだろうか。

本検討では、入学時と実習終了時の学生のそれぞれの意識と保育園現任職員の意識をイメージ調査という形で探ってみた。入学時と比べると、現任職員のいる保育園に10日間実体験することで、実習終了時の意識が変化しているプロセスがうかがえる。